

1 社会・治安情勢

(1) カラチ市

2013年9月以降、治安機関がパキスタン・ターリバン運動（TTP）等のテロ集団を集中的に取り締まり、検挙及び銃器や爆発物等の押収を進め、大規模な爆弾テロ等の阻止を図っている（通称「カラチ掃討作戦」）ほか、2015年3月11日には、準軍部隊レンジャーが、シンド州を基盤とする政党「統一民族運動（MQM）」の本部を捜索し、大量の武器弾薬を押収、多数の重大事件被疑者を逮捕したことにより、凶悪犯罪が減少し、治安の回復が謳われている。しかしながら、同年5月13日、シーア派イスラム教徒の乗ったバスが武装集団に襲撃され、バス乗客等46人が殺害される事件が発生し、比較的警備の手薄な、いわゆる「ソフトターゲット」に対する攻撃の脅威が顕在することを示した。

また、2017年4月には退役陸軍将校が襲撃される事件が、同年5月及び6月には警察官が銃撃され、死亡する事件が発生した。銃器を用いた標的型テロ事件は依然発生しており、市内には多数の武器弾薬を所持したテロリストが潜伏していると考えられるため、十分注意していただきたい。

(2) バロチスタン州

4～6月も引き続き治安機関によるテロリスト掃討作戦が継続され、多くのテロリストの逮捕、投降等あるものの、宗教過激派や民族主義武装集団による異宗派、移民、治安機関やCPEC関連事業等を対象とした標的殺人や爆弾テロ事件は依然多発している。5月には、マストウングにおいて上院副議長に対する爆弾テロ事件や、クエッタ市において中国人2名が誘拐・殺害される事件が発生した。6月には警察長官事務所前で自爆テロが発生した。同州では、現在も治安機関とテロ集団が臨戦状態にあり、治安情勢は極めて悪い。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 犯罪統計

カラチ市警察が発表した1～6月の犯罪統計によれば、カラチ掃討作戦の成果により、殺人、身代金目的誘拐、強盗等の重大凶悪犯罪は去年同期より漸減しているものの、市民に身近な窃盗等の発生件数は依然多発していることから、引き続き十分な注意が必要である。また、薬物所持および武器不法所持事件の多発は、治安機関の取締りの成果と見なしうる反面、暴力団およびテロ集団の資金源とされる違法薬物が蔓延し、テロ、殺人、強盗等凶悪事件の元凶となっている違法武器が広く流通していることも事実であり、治安状況は依然として予断を許さない状況が続いている。主な犯罪種別の内訳は以下のとおり（カッコ内は前年同期）。

- ・ 殺人 272件（341件）
- ・ 標的殺人 10件（18件）

- ・ 爆破テロ 0 件（0 件）
- ・ 恐喝 63 件（93 件）
- ・ 身代金目的誘拐 8 件（11 件）

（2）邦人関連事案

5 月 10 日、カラチ市サダル地区において、当地を旅行中の邦人が、レストランにおいて、財布及びカメラの盗難被害に遭った。

3 主なテロ関連事案等

（1）シンド州・カラチ

- ア 4 月 5 日、カラチ市グルシャネ・イクバルにおいて退役陸軍中佐が襲撃され死亡。L J A（ラシュカレ・ジャンクヴィ・アル・アラミ）が犯行声明を出している。
- イ 4 月 24 日、カラチ市ウルドゥバザール（当館から約 2 km）において、レンジャー部隊とテロリストが交戦となり、テロリスト 3 名が死亡した。
- ウ 5 月 4 日、シンド州アビダル・サーク（シカールプールから 30 km 離れた場所）において警察官が射殺された。
- エ 5 月 17 日、カラチ市ガダップタウンでガスパイプラインを狙い I E D による爆発テロが発生した。当地対テロ部局が、バロチスタン州における過激派組織の最近の破壊活動との関連も考えられるとして捜査を開始した。
- オ 5 月 20 日、カラチ市ドーラジコロニーにおいて警察官 2 人が射殺。L e J, J u A が犯行声明を出した。
- カ 6 月 23 日、カラチ市サイト地区において警察官 4 名が死亡。A S P（アンサー・シャリア・パキスタン）が犯行声明を出した。

（2）バロチスタン州

- ア 4 月 23 日、ケチ県トウルバットで、武装勢力が治安部隊の車両を攻撃し、F C 隊員 4 名が死亡し、他 3 名が負傷した。
- イ 5 月 5 日、国境付近のチャマンでバク・アフ両国兵士同士が交戦となった。子供・女性及び F C 隊員を含む 12 名が死亡し、47 名以上が負傷した。
- ウ 5 月 12 日、マストウングで、ハイドリー上院副議長を狙った自爆テロが発生し、26 人以上が死亡し、40 人以上が負傷した。
- エ 5 月 13 日、グワダル県においてオートバイに乗った 2 人乗りの犯人から銃撃を受け、10 名以上が死亡した。テロ集団「バローチ解放軍（B L A）」が犯行声明を出した。
- オ 5 月 19 日、ケチ県ホシャブにおいて、C P E C 関連の道路建設の労働者 3 名が銃殺された。
- カ 5 月 24 日、クエッタ市ジンナータウンにおいて中国人男女 2 名が警察官を装った武装勢力に誘拐された。

- キ 6月4日、マストゥング付近においてISの指揮官に対する作戦が実施され、指揮官8、9人が殺害されたと発表された。
- ク 6月9日、ISILがインターネット上で、5月24日にクエッタ市において誘拐した中国人2人を殺害したと犯行声明を出した。
- ケ 6月11日、クエッタ市チャッキサフワニのサリアブ通りにおいて、検問所の警察官3名が、2台のモーターバイクに乗った男達4名から銃撃を受け死亡した。
- コ 6月20日、グワダル県ジワニにおいて海軍兵士5名が、2組4名のオートバイに乗った男から発砲を受け、兵士2名が死亡した。
- サ 6月23日、クエッタ市グリスタンロードの警察官7名を含む14名以上が、バロチスタン州警察官事務所の外側での自爆テロにより殺害された。
- シ 6月28日、アワラン地区で7人の警察官が武装された男達に誘拐され、その後釈放された。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

カラチ市警察が発表した1～6月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は8件（前年同期11件）発生し、誘拐を巡る状況は改善傾向にあるものの、いまだ高い発生率で推移していることから、引き続き十分な注意が必要である。邦人が被害となる誘拐事件は発生していないものの、今年5月にバロチスタン州クエッタ市において中国人2名が誘拐・殺害されており、依然外国人に対する誘拐の危険は高い。テロ組織が資金獲得のため犯行に及ぶ場合や、一般犯罪組織等が誘拐した被害者を金銭目的で売り渡す場合もある。当地で生活する場合、誘拐犯などの犯罪者に隙を与えない日常行動が重要である。

5 日本企業の安全に関する諸問題

（1）渡航の際の留意事項

当地では現在、TTP等テロ集団による治安機関に対する報復に対して警戒を強めている状況にある上、比較的警備の手薄ないわゆる「ソフトターゲット」がテロの標的とされる傾向にある。よって、当地へ渡航される場合は、事前に報道等により最新の治安情報を確認するとともに、外務省ホームページに掲載されている渡航情報等を参考にし、渡航の是非を充分検討していただきたい。

（2）駐在される場合

当地ではテロの危険がある他、けん銃強盗等の路上犯罪も頻発しており、実際に在留邦人被害の強盗事件も発生している。また、テロ集団による営利を目的とした誘拐等の被害に遭う可能性も否定できないことから、当地に駐在される場合は、必ず外務省海外安全ホームページ掲載の「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け安全対策マニュアル」等各種安全対策資料や当館ホームページ掲載の「安全の手引き」等を

ご活用のうえ、十分な安全対策を講じていただきたい。

もし事件に巻き込まれた場合、在外公館と在留邦人が緊密に連携して情報を共有し、安全を確保する必要があることから、当館への連絡を徹底していただきたい。